

令和2年度外国人児童生徒等に対する日本語指導研究協議会 記録

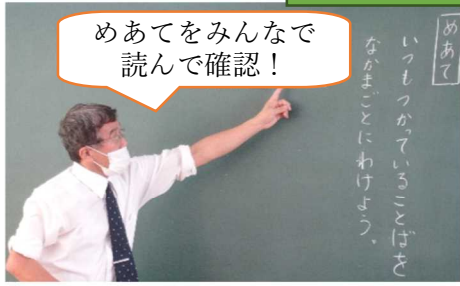
日程：10月29日 会場：伊勢崎市立境東小学校 作成：群馬県教育委員会義務教育課

公開授業「単元：仲間の言葉と漢字」

活動の見通し

日本語に興味・関心をもたせる工夫

対話を充実



日常生活で使っている言葉で仲間分け！



同じグループの友達と話し合いながら言葉カードを使って仲間分け！

個々への指導

発表

児童全員に発表させる機会を設定

学びの自覚



2人の教師で分担しながら、児童一人一人の実態に応じた指導



グループで考えた仲間分けを発表！



本日の授業のまとめと振り返り！

<参観者の感想>

- ・発表の際、どの児童も友達への説明がしっかりできており、言葉の力が身に付いていると感じた。
- ・児童8人と多い中でも学習活動がしっかりできることを実感した。
- ・自分の考えを言いたい、聞いてもらいたいという思いが感じられ、友達との話し合い活動は有効であると実感した。

全体協議内容

JLT、TJC、長期研修員の疑問・悩みを基に協議しました

<授業検討会>

Q. 言葉の力を身に付けるための工夫について

- ☞ 入り込み指導だと発表する機会などがなかなかもてないが、取り出し指導の際、子供たちに黒板の前で発表させたり、字を書かせたりする機会を設定する。

Q. 日本語指導で、グループ活動をするよさについて

- ☞ 日本語指導の際、グループ活動の機会をもつことで、相手に自分の思いや考えを日本語で話すことができるようになる。それを入り込み指導でも生かせるようにしていく。

Q. 文字言語の授業について

- ☞ 言葉と絵を結び付けながら、言葉を獲得させていくこともあるが、自分で言葉を見付けたり、考えたりしながら言葉を獲得することで、満足感や達成感が得られるようにしていく。



<伊勢崎市「日本語指導の取組について」>

- ・市独自の実態調査より、28カ国、21言語の子供たちが在籍している。
- ・日本語指導を必要とする子供たちの学校生活を支え、外国語に堪能である、外国籍児童生徒学校生活支援助手(27名)を各学校に配置している。
- ・市教育研究所の日本語教育研究班より、共通の指導書である「日本語ステップ」や日本語初期指導プログラムなどを作成し、情報発信している。
- ・市の中でも集住地域と散在地域があり、日本語指導に差が見られる。特に、日本語教室未設置校における指導体制の構築、改善、充実を図るため、日本語指導に高い専門性を持つTJCを配置した。
- ・TJCは複数の学校を兼務し、日本語指導が必要な児童生徒への指導の他、学級担任等への助言、校内の日本語指導体制を整えるための助言などを行っている。

<協議「日本語指導の成果と課題について」>

- ・4月からの研修を生かし、日本語指導に困っている先生方へ教材の情報提供などの支援を行っている。
- ・特別の教育課程や個別の指導計画を作成するにあたり、保護者と面談する機会を設けている。
- ・日本語指導の経験を持つ先生方との交流を通して、指導の技術を高めることができています。
- ・すでに配置されている日本語指導員(主に通訳を担当)との違いを学校の方に理解されていない。

<まとめ>

- ・自分の考えを友達に伝える言語活動を設定したことで、子供たちが自分なりに言葉を捉えて、学んだ言葉を積極的に使ってみようとする姿が見られた。
- ・在籍学級の教科学習に参加し、仲間と共に学び合う力につなげていくことのできる授業であった。
- ・在籍学級の先生方と連携を図り、在籍学級での活動に外国人児童生徒が積極的に参加していける支援体制を構築していく。